

世界に翔く宮崎牛

——発行所——
宮崎県肉用牛協会
社団法人 宮崎県畜産会
No.6

1994年11月号



第46回宮崎県畜産共進会肉用牛審査風景 (6.10.5.南那珂地域家畜市場)

11月号目次

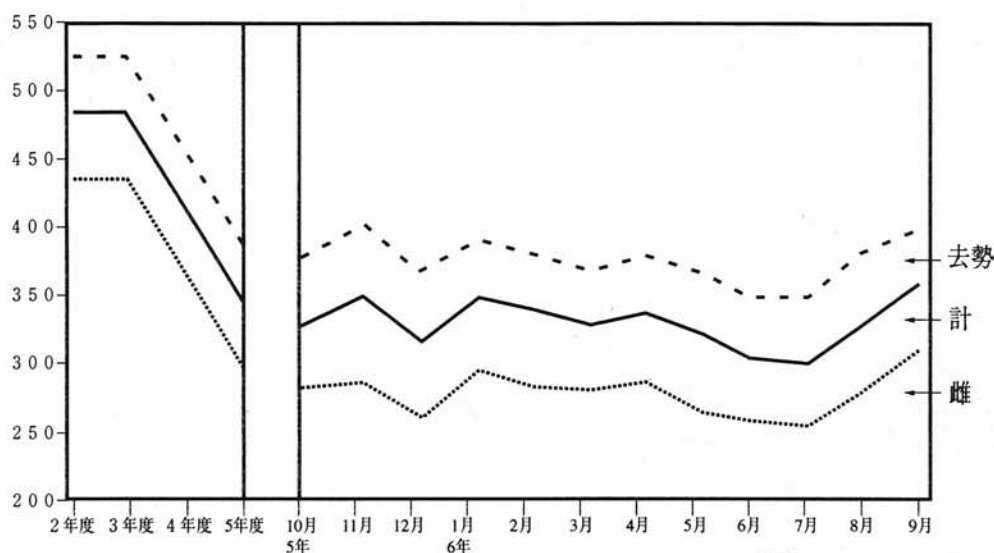
価格情勢	2
事業紹介	3
トピックス	4
技術情報	8
現地情報	9

今月の飼養管理ポイント	11
おたずねします	12
今後の行事計画	13
一服放談	14
編集後記	14
速報	15

価格情勢

肉用子牛価格の推移 (宮崎県)

単位：千円



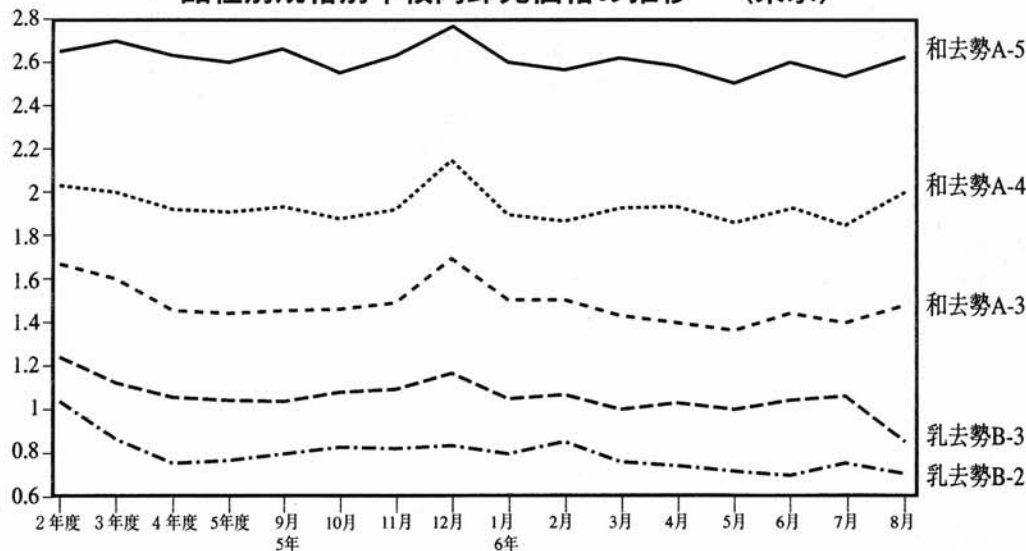
(単位：千円、税込み価格)

	2年度	3年度	4年度	5年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
雌	446	436	362	277	282	284	259	292	283	279	282	266	245	236	263	298	311
去勢	526	527	458	377	377	398	365	388	387	372	381	372	333	330	379	404	415
計	487	485	413	330	333	346	314	345	338	329	334	323	291	283	324	355	368

注) 価格は、消費税込み価格で10月は速報値

単位：千円

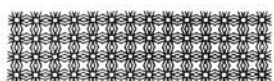
品種別規格別牛枝肉卸売価格の推移 (東京)



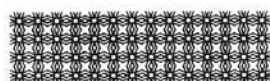
(単位：円)

	2年度	3年度	4年度	5年度	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
和去勢A-5	2,682	2,711	2,643	2,612	2,650	2,539	2,630	2,751	2,554	2,544	2,624	2,587	2,529	2,658	2,572	2,654	2,617	2,530
和去勢A-4	2,226	2,178	2,024	1,937	1,962	1,856	1,926	2,190	1,923	1,895	1,947	1,936	1,851	1,946	1,862	1,988	1,963	1,863
和去勢A-3	1,862	1,745	1,547	1,498	1,513	1,489	1,526	1,736	1,498	1,499	1,461	1,432	1,386	1,448	1,422	1,471	1,576	1,513
乳去勢B-3	1,247	1,116	1,029	1,015	1,006	1,051	1,060	1,126	1,013	1,054	1,000	1,041	1,013	1,033	1,063	1,060	907	948
乳去勢B-2	1,020	842	772	827	855	849	847	880	829	858	759	770	725	706	767	775	770	694

※平成5年度分は単純平均値、平成6年度9.10月分は速報値



事業紹介



肉用子牛生産者補給金制度

平成6年度保証基準価格及び合理化目標価格

区 分	黒毛和種	褐毛和種	乳用種	その他の肉専用種
保証基準価格	304,000円	280,000円	162,000円	208,000円
合理化目標価格	267,000円	246,000円	126,000円	163,000円

平成5年度平均売買価格

区 分	黒毛和種	褐毛和種	乳用種	その他の肉専用種
第1四半期	311,400円	193,100円	98,400円	99,300円
第2四半期	313,000円	211,300円	97,800円	132,800円
第3四半期	319,700円	220,300円	98,400円	92,800円
第4四半期	319,900円	213,400円	91,500円	89,600円

平成6年度平均売買価格

区 分	黒毛和種	褐毛和種	乳用種	その他の肉専用種
第1四半期	288,100円	223,100円	74,800円	116,800円
第2四半期	303,000円	236,000円	62,600円	128,500円

年度別生産者補給金交付額

(単位: 頭、千円)

区 分	黒毛和種		褐毛和種		その他の肉専用種		乳用種		合 計	
	頭数	金 額	頭数	金 額	頭数	金 額	頭数	金 額	頭数	金 額
平成3年度					29	2,302	11,908	288,472	11,937	290,774
平成4年度					30	2,615	18,105	904,361	18,135	906,976
平成5年度			32	2,169			21,932	1,399,158	21,964	1,401,327
小 計			32	2,169	59	4,917	51,945	2,591,991	52,036	2,599,077
平成6年度	20,700	329,130	4	218			5,471	449,060	26,175	778,408

注) 平成5年度(第4四半期)及び平成6年度は概算で、平成6年度は第1四半期分

子牛生産拡大奨励事業

事業の実施状況(発動状況)

本県の交付実績

年度		2 年度				3 年度				4 年度				5 年度				6 年度		年度	交付頭数 (頭)	交付金額 (千円)
四半期		第 1	第 2	第 3	第 4	第 1	第 2	第 3	第 4	第 1	第 2	第 3	第 4	第 1	第 2	第 3	第 4	第 1	第 2	2年度	0	0
拡大 奨励金	黒毛																			3年度	0	0
	褐毛	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×							4年度	0	0
	その他	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○							5年度	60,124 （拡大25,820 生産34,304	1,340,388 722,936 617,452
生産 奨励金	黒毛	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×							6 年度	20,252 （拡大 7,197 生産13,059	774,996 331,062 443,934
	褐毛																					
	その他	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○									

※6年度は第1四半期分

肉用牛肥育経営安定緊急対策事業

事業の実施状況(発動状況)

本県の交付実績

年 度		2年度		3年度				4年度				5年度				6年度		年度	交付頭数(頭)	交付金額(千円)
四 半 期		第3	第4	第1	第2	第3	第4	第1	第2	第3	第4	第1	第2	第3	第4	第1	第2	2年度	7,388	59,026
乳用種	緊急	×	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	×	×			3年度	16,557	307,600
	特別	—	—	○	○	×	○	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	4年度	29,289	502,910
肉専用種	緊急	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	③	②	5年度	33,238	573,510
	特別	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			

※③は第3段階の発動 ②は第2段階の発動

肉用牛生産技術向上促進事業 (うち肉用牛効率的生産実証展示事業) の概要

黒毛和牛の肥育の場合、肉質を良くしようとすれば、一般に肥育期間を長くしなければならいと言われています。しかしながら、今後は肉質向上はもちろんですが、少しでもコスト低減を実現していかなければなりません。

そうした取り組みを後押しする事業が「肉用牛生産技術向上促進事業」です。平成5年度宮崎県においては農協等の4団体で実施され、実証展示頭数は黒毛和種501頭です。

表1に示したモデルに沿った肥育(肥育開始時月齢は12ヵ月齢以下。終了時月齢は黒毛和種で25あるいは27ヵ月齢未満、乳用種で19あるいは21ヵ月齢未満が条件)の実証展示を行う場

表2 平成5年度黒毛和種全国集計結果(調査成績取りまとめ表抜粋)

項 目	全 国 集 計 結 果		県経済連 出荷成績
	肥育期間 短 縮	粗飼料 多 給	
調査頭数 (頭)	1,808	1,369	4,254
購入価格 (円)	409,541	489,896	496,143
肥育開始時月齢(月齢)	9.6	9.2	9.9
肥育開始時体重 (Kg)	293	280	300.9
肥育期間 (日数)	451.9	527.3	585
肥育終了時月齢(月齢)	24.4	26.5	29.1
肥育終了時体重 (Kg)	667.7	664.1	662.9
肥育期間D G (Kg)	0.833	0.731	0.62
枝肉単価 (円)	1,591	1,910	1,801
一日増加額 (円)	539.9	580.3	483.1

表1 効率肥育モデル(効率肥育技術型)

(単位・月、kg)

品種	肥育形態	開始時		肥育時期	終了時		飼育摂取 量(TDN)
		月齢	体重		月齢	体重	
黒毛和種	肥育期間短縮	8	250	16	24	640	2690
	粗飼料多給	8	250	18	26	640	2960
乳用種	肥育期間短縮	6	250	12	18	700	2660
	粗飼料多給	6	250	14	20	700	2930

合、黒毛和種で29千円/頭、乳用種で13千円/頭の助成金が交付されます。平成5年度全国集計結果(調査成績取りまとめ表抜粋)と本県の県経済連出荷成績(表2)とを比較すると必ずしもこの事業の調査牛の肥育成績が劣っているとは言えないことが伺われます。

この事業を活用し、肥育期間の短縮化に向けて素牛の血統、素牛の月齢、飼料給与技術等を検証していくことが重要であると思います。

トピックス

平成7年度農林水産予算概算要求

平成7年度農林水産予算概算要求額は前年度より0.1%増の3兆4,206億円となっています。そのうち、公共事業費は、前年度に比べて、0.2%増の1兆8,584億円となっています。

なお、ガット・ウルグアイ・ラウンド農業合意の実施に伴う国内対策に必要な経費の平

成7年度における取り扱いについては、予算編成過程において検討することとされています。

また、平成7年度の予算編成においては、総額3千億円の公共投資重点化枠を設けることとし、農林水産関係では総額1,210億円を要望しています。

畜産再編へ総合的対策を実施

畜産局の平成7年度概算要求は、0.3%増の1,736億円（その他に公共投資重点化枠18億円）となっています。ガット・ウルグアイ・ラウンド対策は別途措置となりますが、概算要求で打ち出した内容もガット・ウルグアイ・ラウンド対策の意味合いが強いです。その柱は、「畜産再編総合対策」で、今年度の「畜産活性化対策」を見直し、「地域畜産再編対策事業」、「中山間地域活性化対策事業」等をもりこんでいます。

① 地域畜産再編対策事業

地域畜産の再編及び活性化を図るため、離農跡地の効率的利用、意欲ある経営体の育成、生産技術の高度化、拠点的な共同利用畜舎の整備等を総合的に推進



② 中山間地域活性化対策事業のうち山地畜産確立事業

放牧利用を主体とした山地畜産の確立を図るため、蹄耕法等による草地の造成整備、山地畜産確立のための推進活動等を実施。

平成7年度畜産局予算要求総括表

項 目	6年度予算額 (百万円)	7年度予算額 (百万円)	対前年度比 (%)
(非 公 共)	143,787	143,788	100.0
1 畜産再編総合対策 (畜産活性化対策)	—	16,234	—
2 配合飼料価格安定対策	200	100	50.0
3 食育会計へ繰入れ	300	300	100.0
4 飼料用麦流通促進対策	914	869	95.0
5 加工原料乳不足払	26,677	26,102	97.8
6 学校給食用牛乳供給事業	5,231	5,154	98.5
7 鶏卵価格安定事業	1,236	1,236	100.0
8 肉用子牛等対策	100,608	別 途 検 討	
9 そ の 他	13,243	13,644	103.0
(公 共)	29,306	29,855	101.9
1 飼料生産基盤整備	24,126	24,274	100.6
2 畜産環境総合整備	5,180	5,581	107.7
別に 畜産振興資金	(貸付枠) 22,700	(貸付枠) 22,700	100.0

(注) 1. < > 内は、公共投資重点化枠要望額で、外数である。

2. 6年度予算額及び7年度要求額（6年度と同額を仮計上）とも肉用子牛等対策費を含む。

3. 7年度の肉用子牛等対策費については、「平成7年度の概算要求について」（平成6年7月29日閣議了解）に基づき、予算編成過程において検討する。

U・R農業合意関連対策大綱が発表される。

ウルグアイ・ラウンド農業合意に伴う関連対策については、

- ① 農業に誇りを持って携わることのできる魅力ある産業として確立すること。
- ② 国土資源の有効利用により可能な限り国内生産を維持・拡大し、国内供給力を確保すること。
- ③ 消費者に対する良質・安全・新鮮な食料の

適正な価格水準での安定供給を図ること。

④ 住みやすく活力に満ちた農村地域を建設すること。

を基本方針として、ウルグアイ・ラウンド農業合意の実施期間である平成7年度から平成12年度までの6年間で、農業農村整備や農家負債軽減、農地流動化など総事業費6兆100億円で実施されることになりました。対策の詳細は明らかではない部分も多く、今後7年度の予算編成課程、地方財政処置の中で具体的内容が確定していくこととなります。

6年度第1回牛肉需給懇談会開催

9月19日に東京大手町のJ Aビルで行政、流通関係者等が集まり、牛肉需給懇談会が開催されました。関係者からの主要意見としては、

① 生産サイド

・九州は和牛が増加し、乳牛は減少傾向。

② 加工サイド

・昨年まで低価格牛肉が売れたが今年は不調。
・夏場の商戦は「ローストビーフ」、「たたき」が好調。

③ 量販サイド

・米国産バラ肉の焼肉需要の定着。
・昨年に比べて価格は、和牛は据え置き、乳牛は低下傾向。

④ 市場サイド

・相場は乳牛、F1が低下。
・和牛では上物規格の割合が低下。

⑤ 外食サイド

・バブル期と比較してステーキ小売価格で200～300円低下。

⑥ 輸入サイド

・国内の消費は減少傾向で、価格は横這いなし低下傾向。
・米国は増加基調にあり、来年から輸入量が増加し、現地価格は低下を予想。

農林振興局課長会議で肉用牛の現状を分析

先般、都城市内で西臼杵支庁、各農林振興局の農畜課長会議が開催され、各地域における肉用牛生産の現状と問題点等について検討が行われました。

(現状)

- ① 発育面で子牛のバラツキが大きい。
- ② 肥育農家の収益性の悪化により地元購買力が低下し、地元保留牛の価格が低い。
- ③ 県外購買者の情報収集力の大きさに対する対応の遅れがみられ、優良子牛の管外流出が多く見受けられる。
- ④ 枝肉情報が不足し、更新牛の適切な選定が行われていない可能性があり、また、交配組合せ指導も不十分な状況。
- ⑤ 飼養者の高齢化、先行き不安、資金離等により、雌牛導入のチャンスでありながらも導入意欲が低い。

(今後必要な対応)

- ① ほ育・育成時の飼養管理の見直し。
- ② 種雄牛間の子牛価格差が拡大する傾向にあり、検定施設の拡充による優秀な種雄牛の早期造成。
- ③ 雄雌間の子牛価格差が拡大する傾向にあり、雌牛の導入意欲の促進。
- ④ 血統組合せとして一時代前の母牛が多数飼養されており、これら雌牛の早期更新。
- ⑤ 地元肥育農家の育成による保留率の向上。
- ⑥ 「肉用子牛生産者補給金制度」、「子牛生産拡大奨励事業」等関係事業の農家への周知徹底。
- ⑦ 「宮崎牛」のブランド確立のための肥育技術の向上。

今後必要な対応策については7年度予算の策定、国への要請等で具体的に検討・要望していく予定です。

第46回宮崎県畜産共進会でグランドチャンピオン決定

1、種畜の部

種畜部門は去る10月5～6日の2日間串間市市制施行40周年の記念行事として、10年ぶりに串間市の南那珂地域家畜市場をメイン会場として開催され、県内各地から予選を勝ち抜いた優秀な肉用種牛72頭、乳用種牛70頭、種馬20頭が出品され審査されました。

これに先立ち7月6日から22日にかけて、県内外の4ヶ所で審査が行われた肉豚の部の審査報告も合わせて行われ、次の出品者がグランドチャンピオンに決定しました。

(1) 肉用種牛(セット出品)

名号	出品者
はなよ	川南町 市来原博氏
さざなみ 7	都農町 三輪 正氏
第6ふくつる	高鍋町 山田善常氏



(ふれあい広場で楽しむ小・中学生)

(2) 乳用種牛

名号	出品者
ウェインブラックスターボード	小林市 高佐政昭氏

(3) 種馬

名号	出品者
初美	都城市 上村貞弘氏

(4) 肉豚

名号	出品者
タンノ1～15	高原町 丹野正司氏

また、共進会の付帯事業として、消費者参加の「畜産まつり」を開催しましたが、今回は特に地域の多くの幼稚園、小中学生が教育の一貫として来場し、牛肉の焼き肉に舌づつみを打ちながら家畜のふれあいを楽しんでおりました。



平夫号のロース断面(血統父安平、母の父隆美)

2、肉用枝肉の部

“史上最高のセリ値”

10月25日高崎町のくみあい食肉高崎工場で枝肉(黒毛和種)100頭の審査が行われました。

格付は歩留のA等級は89頭(昨年比1%増)と品質格差が縮まり肉質の向上がみられたとの講評がありました。

北郷町黒木卓さん(59才)の平夫号がグランドチャンピオンとなり、表彰式後のセリで枝肉キロ当たり11,010円、総体4,972,116円とこれまでの最高値であるキロ当たり8,300円(平成3年)を大幅に上回る値をつけました。

第18回九州地区牛削蹄競技大会で宮崎県選手全員が上位入賞

第18回九州地区牛削蹄競技大会(九州地区削蹄師連絡協議会主催)が、さる8月30日、鹿児島県国分市の鹿児島県畜産試験場で開催されました。九州各県から29名の選手が出場し、炎天下の中、無保定のまま乳牛を相手に削蹄実技等を競いました。宮崎県から8名の選手が出場し全員上位入賞を果たしました。

この大会の上位6名は10月24～25日、東京都の大塚牧場で開かれる農林水産祭参加行事の平成6年度全国牛削蹄競技大会に出場します。上位入賞者は次のとおりです。(敬称略)

1位= 新竹正人(宮崎県)、2位= 平沢津美朗(鹿児島県)、3位= 金山太光(福岡県)、4位= 松田忠己(宮崎県)、5位= 町田光彦(鹿児島県)、6位= 上坂広美(宮崎県)、ただし全国大会出場は、一県2名以内の規定により6位入賞者に替り、10位の大森繁隆(福岡県)が出場となります。

● 技術情報 ●

一産取り雌肥育のポイント

一産取り肥育は宮崎農業改良普及センター管内では、佐土原町と田野町で主に行われています。この肥育方式には、2つのパターンがあります。1つは分娩前にも少しづつ肥育しておき、分娩後授乳させずに増飼するA方式と、分娩するまでは少し太った育成牛程度とし分娩後授乳させ、離乳後増飼するB方式です。A方式は肥育主体の経営で行われており、その長所

は、導入から出荷までの期間が20～22カ月と短いことで、短所は子牛の事故が20%程度と多いことです。これに対してB方式は主に繁殖を主体としている経営で行われており、子牛の事故は少なく安定していますが、出荷までの期間が24～26カ月と長く回転が悪くなります。経費的には、いずれも母牛の肉代でそれまでの経費をほとんど支払い、子牛が残る程度です。しかし、経営としては、A方式では比較的安定して素牛が確保でき、B方式では子牛セリ市で自分の思った価格までボタンを押しておけるので、

6 週離乳型

(A)

生後月齢	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
主な管理	導入	種付け	種付け	種付け	妊娠確認	妊娠確認	妊娠確認	妊娠確認	妊娠確認	妊娠確認	妊娠確認	妊娠確認	妊娠確認	妊娠確認	分娩	分娩	分娩	分娩	分娩	分娩	分娩	分娩	分娩
	260kg	330kg	330kg	330kg	330kg	330kg	330kg	330kg	330kg	330kg	330kg	330kg	330kg	330kg	330kg	330kg	330kg	330kg	330kg	330kg	330kg	330kg	330kg
飼料	乾燥	3	3	3	3	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	3	3	3									
	稲わら														2	2	2	2	1.5	1.5	1	1	1
	濃厚飼料	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	7.5	8	8	8	8	8	8	8	8

3～4 ヶ月離乳型

(B)

生後月齢	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	35	37
主な管理	導入	種付け	種付け	種付け	種付け	妊娠確認	妊娠確認	妊娠確認	妊娠確認	妊娠確認	妊娠確認	妊娠確認	妊娠確認	妊娠確認	分娩	分娩	分娩	分娩	分娩	分娩	分娩	分娩	分娩	分娩	分娩	分娩
	260kg	330kg	330kg	330kg	330kg	330kg	330kg	330kg	330kg	330kg	330kg	330kg	330kg	330kg	330kg	330kg	330kg	330kg	330kg	330kg	330kg	330kg	330kg	330kg	330kg	330kg
飼料	乾燥または (サイレージ)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3									
	稲わら	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2.5	2.5	2.5	3	3	3	3	2	2	2	2	1	1	1	1	1
	濃厚飼料	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	5	6.5	7.5	7.5	7.5	7.5	8	8	7.5

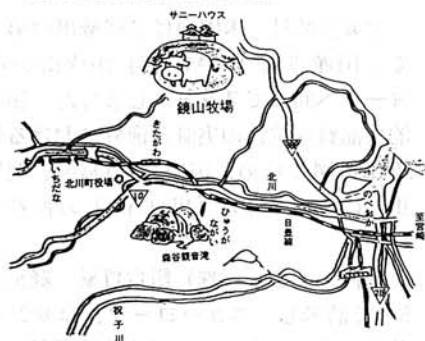
平均で3～5万円高く販売できる利点があります。

子牛生産農家の皆さんも、もし、雌子牛が思った程の価格でなかったら1産取り肥育を試してみませんか。

県内唯一の肉用牛育成牧場「鏡山牧場」

北川町では、平成元年度から3年度まで「公共牧場機能強化事業」により道路整備、草地改良、資料展示施設、畜舎整備等を行い、平成5年度からは「地方競馬全国協会補助事業」によ

牧場までの交通：ご来訪の際は、マイカーをご利用下さい。
延岡市から車で約40分、北川町中心部から車で約30分
JR日豊本線「市棚駅」から車で約20分



り待機舎整備等を行い、牧場の整備を図ってきました。

現在、当牧場では約70haの牧草地に成雌牛68頭、育成牛13頭、肥育牛9頭、子牛49頭を飼養し、生産された優良子牛を肉用繁殖農家に安定的に供給し、肉用牛振興を図るとともに放牧経営によるコスト低減に貢献しています。

また、鏡山牧場は普段から市民に開放されており、ポニー、緬羊、山羊、日本鹿、うさぎ等とふれあえる「ふれあい動物園」や「パターゴルフ場」、「アスレチック施設」、「人工芝スキー場」などで楽しめますので、皆様もぜひ一度お立ち寄り下さい。

現地情報

「神武の里'94 高原メッセ」で宮崎牛の試食！

去る8月28日に、高原町の皇子原公園多目的広場で、町制施行60周年記念事業の一環として「神武の里'94高原メッセ」が、盛大に開催されました。

当日は夏休み最後の日曜日とあつて、子供連れの家族を中心に約5000人の人出で賑わいました。

子供たちに人気のあるキャラクターショーやピエロショーを中心に、宮崎牛・ラーメンの試食コーナー、脱穀作業・餅つき体験コーナー、



綱引き大会、神武太鼓、野菜即売など子供から大人まで楽しめる多彩な内容でした。

その中でも、特に人気を集めたのは、宮崎牛（約80kg）の試食コーナーで、コーナーオープンと同時に長い行列ができました。

北川町で牛肉フェスティバル開催

去る10月2日、北川町鏡山で「牛肉フェスティバル」が開催されました。この「牛肉フェスティバル」は鏡山の良さを知ってもらおうと同町畜産公社と同町観光協会が共催して毎年行っているもので、今年で11回を数えます。

雲一つない秋晴れの中、町内を中心に県北一円、遠くは大分県佐伯市から230人の参加者が集まり、西には祖母傾の山並みが、東には日豊海岸国定公園のリアス式海岸が一望できる山頂で、ビールを片手に焼き肉に舌鼓を打ったり、景色をバックに写真に納まったり、ゲームに歓声を上げたりして秋の1日を満喫していました。

この日は、生体で500～600kgの和牛2頭分のロース肉約100kgが準備された他、鮎の塩焼き・甘露煮、団子などの町特産品の販売も行われ、参加者達は秋の一日を満喫していました。



カーニリベレーター (CARNI LIBERATOR)

耳慣れない言葉ですが、スウェーデン語で直訳すると筋肉引っ張り機、用途が分かるように言うと、牛の枝肉脱骨をする装置即ち「脱骨機」です。

この「カーニリベレーター」が畜産振興事業団と県の助成もあって、くみあい食肉高崎工場に設置されることになりました。

ご存じのように同工場は対米輸出工場に認定されている全国屈指のモデル的な施設ですが、「カーニリベレーター」の導入によって、より近代的な工場に生まれ変わります。

今までの脱骨は、ほとんどが人力でされており、腕力の要る大変な作業でしたが、この装置によって、枝肉を吊るしたままの状態、スピーディに、安全に且つ衛生的にできることになります。

この結果、より多くの枝肉をより高品質の製品として加工できることになり、「宮崎牛」の名声を高める一助になりそうです。

和牛（WAGYU）輸出の現状と展望

平成2年9月、米国向け牛肉輸出の第一便として、国産牛肉「WAGYU」が成田からニューヨークへ向けてスタートしました。和牛の国際的な品質優位性の実証と海外における消費の定着化を図るため、国内3県（宮崎、鹿児島、群馬）によるまさに「WAGYU」の世界への飛翔です。

今回、全農・（株）組合貿易・経済連・県の5名で訪米し、ニューヨーク、ロサンゼルス、サンフランシスコにおける輸出現状について視察。3県での平成5年度の取扱い実績は、当初からの関係者の販促努力により、15カ所（卸売り、小売り店、レストランなど）46トンに及んでいますが、残念ながらここ1～2年停滞している現状です。

その原因として、

- ①価格差が大きい（サーロイン・ヒレステーキの料理価格で3～4倍）こと
- ②不景気により従来の消費主体である日系人や日本人の消費が停滞していること
- ③現状の需要がサーロイン、ヒレの高級部位に集中しており、低級部位のものは米国産のものと競合しやすく販促が難しいこと
- ④米国人に赤肉嗜好やヘルシー志向が定着していること

などがあり、厳しい実状に直面しています。

しかし、一方では、米国系のレストラン・食品店の売上が伸びており、「WAGYU」が日系人以外にも徐々に浸透しているとのこと。また、陶板焼き等の人気も上々であり、質をア

ピールする料理開発、さらには脂肪偏見を改善することで、徐々にではありますが、米国内販促は伸展するものと確信しています。

さらに、今後、「WAGYU」をより一層差別化商品として位置付けし、取引先の充実・開拓を推進することが重要と考えます。

「肉用牛生産技術向上促進事業」で 田中慎一氏が「稲本畜産」で研修

「稲本畜産」は串間市本城上千野で約180頭の去勢牛を肥育している農家です。ご家族はご主人の民雄さんと奥さんのまゆみさん、それに長男の民行くさんを筆頭に四人の子どもさんという構成で、山口さんと田伏さんのお二人がいらつしゃいます。ここでの日課は8時より始まり、飼料の給与配合、11時からはみおけの清掃、12時から昼食、1時から5時まで飼料の給与や配合準備などを行ないました。考えさせられたのは水の重要性でした。牛舎への水を確保するため夜間は生活用水が使えなくなります。また晴

天続きのため井戸水節水に努めなければなりません。生きていくための水でした。こちらでは低コスト生産への取り組みとして牛舎を自らの手で建て費用を抑えています。これは時間と技術と労働力を必要とします。また牛舎より搬出した敷料は発酵させ堆肥として販売しています。臭いが少ないため評判はよく、遠方より求めに來られます。これはこれで一石二鳥なのですが、切り返しや袋詰めなどの労働力、オガクズ代を考えるとやはりマイナスになってしまいます。このような努力や工夫の実践は勉強になりました。一方、予期せぬ事故牛の発生にも立ち会いました。外因的、内因的要因がありますが、経営安定のためには最大限要因の排除できないことを認識しました。

約1カ月の短い研修でしたが稲本さんをはじめ稲本畜産の方々並びに多くの方にお世話になりました。有難うございました。ここでの研修を生かして、これからも勉強し、世界に向けての宮崎牛ブランド確立に貢献しようと思います。



今月の飼養管理ポイント



冬にそなえてすきま風対策

ようやく人間にとっては過しやすい季節となり、少しは農作業の方もしやすくなったのではないのでしょうか。しかし、この時期は日中の暖かさと比べ、朝晩の冷え込みが厳しく、着替えのできない牛にとっては昼夜の温度差がストレスの原因となり、色々な病気にかかり易くなっています。

これから寒くなっていますが、牛舎のすきま風対策は十分でしょうか。すきま風は子牛にとって風邪や下痢の原因となります。今の時期は、昼間の気温が高くなることがしばしばあ

り、牛舎の縦横のカーテンを全開にすることもあります。その日が快晴で、ある程度風が吹いていれば床（敷料）はよく乾きます。しかし、もし乾いていなかったら、子牛は濡れたままの床（敷料）の上で過さなくてはならなくなります。その上、夕方から夜にかけてカーテンを不完全に閉めていたり、すきま風が当る状態にしておくと、弱い子牛はたちまち病気にかかってしまうでしょう。

そこで、今回のポイントですが、

1. 牛床に（敷料）については清潔に保つよ

- うに心がけ、できるだけ敷料を豊富に入れる。
2. カーテンの開閉には十分に気を配り、温度差でストレスをかけないようにする。
 3. 分娩房など子牛のいる場所は、すきま風の当らない場所を選ぶ。
 4. 抵抗力を付けるために獣医師の指導のもとで、ワクチネーションを実施する。

以上4つを挙げましたが、すきま風は子牛だけでなく、成牛にとってもストレスの原因となります。また冬になると、ウイルス性の疾患（ロタウイルスやパラインフルエンザなど）が多くなってくるので、今のうちに基本的な事項をチェックしておきましょう。

○ ??? おたずねします。 ??? ○

アニマルモデルという言葉がありますが、それはどんな事を意味しているのですか？やさしく説明して下さい？

例えば、種雄牛Aの産子は誰が肥育してもサシがよく入るとすると、この種雄牛Aはサシについて非常に素晴らしい遺伝子を子牛に伝えることになり、サシに関する遺伝的能力が優れているといえるでしょう。このように、親牛が子牛に伝える遺伝的能力を数値化したものが育種価（正確には育種価推定値）です。ところで、子牛に対して遺伝的に影響が大きいのは、父牛、母牛どちらでしょうか？言うまでもなく、父牛と母牛は子牛に対して同じように責任があります。そこで、父牛、母牛いずれにおいても育種価を把握し、レベルアップしていくことが大切です。

ところが、父牛と違って母牛は生涯で得ることのできる情報が限られているため育種価を推定することができませんでした。しかし、プログラムなどの開発により数年前（本県では平成3年から）から血縁情報を用いて母牛の育種価も推定できるようになりました。例えば、母牛AとBが次のような血縁情報を持っていたとすると、母牛Aの方が遺伝能力が高いと予想されます。

例) 母牛A・・・子牛がBMSNo.11、かつ、
弟牛がBMSNo.10
母牛B・・・子牛がBMSNo.11、かつ、
弟牛がBMSNo.5

これは単純な血縁関係の例ですが、現実にはもっと複雑な血縁関係になります。このように血縁情報を用いて、父牛、母牛を問わず1頭1頭の牛（個体）の育種価を推定する方法をアニマルモデルと言います。

最後に、今後、和牛改良を進める上においては、他の和牛産地よりも、より早く、より確実に母牛の育種価を把握し、レベルアップすることが重要です。

一 服 放 談

編集後記

格気(りんき)女

世の御主人が、二次会、三次会と飲み歩き、ワイシャツには口紅が付き、ポケットにはホステスの名刺が入っていたりして、翌朝、カアちゃんから大変なお目玉を戴いた話はよくよく聞くものである。職場でも人気高い40代の或る男が言っていた。

うちのカアちゃんは気が利いて、良く働いてくれるし、別に言う所は無いが、ただ一つ嫉妬心が強過ぎて困るというのである。その真相を更に聞き正してみると、勤務の都合で夜おそく帰った時などは、必ず背広に女の髪の毛は付着していないか、ワイシャツに口紅は付いていないかなど、うるさく検査するので、俺をそんなに疑うのか、と叱りとばしたら、あなた??女の髪の毛が一本も見つからないところをみると、禿げた頭の女と浮気した筈だと、反論を止めなかったとか。

(頓珍漢)

2カ月に1回の情報誌の発行ですが、6回の発行を重ねましたら1年が経ちました。この間、数多くの原稿を戴きどうか発行を重ねる事ができました事に対し、深甚なる謝意を表したいと思います。できる限り注意して更正している積りですが、見誤りや更正の間違いなどがあり、多くの迷惑をお掛けした事と思います。あしからずお許し下さい。

平成7年も引き続き発行を重ねて行く積りですから、皆さんの御援助、御協力を賜りますようお願い申し上げます。

速 報

肉用子牛生産農家の皆さんへ

★子牛の補給金と奨励金を経営の支えとして頑張ろう。

今年度7～9月期の生産者補給金と生産拡大奨励金が次のように交付されます。

(単位：円)

品 種	補 給 金	奨 励 金	合 計
黒毛和種	1,000	拡大者の場合46,000	47,000
		維持者の場合34,000	35,000
褐毛和種	43,000	拡大者の場合25,000	68,000
		維持者の場合16,000	59,000
日本短角 種など	76,050	拡大者の場合19,000	95,050
		維持者の場合12,000	88,050
乳 用 種	93,060		

注) 奨励金のうち「拡大者の場合」とは昨年度に繁殖めす牛を増頭(拡大)した者、「維持者の場合」とは昨年度に繁殖めす牛を維持(同数)した者を言います。

今年7～9月の間に満4月齢以上になった子牛を市場等で販売した方、又はこの期間に子牛を満12月齢に達するまで飼養した方は最寄りのJA等にお届け下さい。

農林水産省／都道府県／畜産振興事業団
(社)全国肉用子牛価格安定基金協会
都道府県肉用子牛価格安定基金協会

